

放射線の正しい知識の伝え方

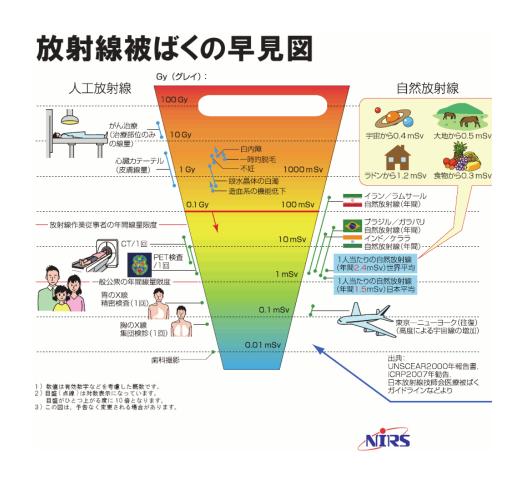
「放射線を正しく理解するために」

- ・放射線は"なんとなく不安"だけどよくわからない
- ・目に見えない、日常生活では意識しにくい



「どう伝えればよいか」

- ・一度に理解してもらうのは難しい
- ・具体的に交えて伝えることが大切
 - ・ドラマや映像でイメージ化
 - ・"きり箱実験"で見える形に
 - ・天気予報のように数値を示す



「一歩ずつ積み重ねていく」

- ・放射線は"目に見えない"からこそ丁寧に伝える必要がある
- ・ドラマ、実験、データなどの複数の方法を組み合わせる
- ・一度で解決できない→長期的に継続して理解を広げていく

技術者と社会

福島中間貯蔵施設見学を通して

現場で感じたこと

福島中間貯蔵施設を見学、職員の方々から現状を伺う

印象的だった言葉

「最終処分について、技術的には可能でも、社会がどんな方法だったら受け入れてくれるかが大きな課題。そしてどれを選ぶかで方針、管理方法等が大きく変わる」

「技術的に可能か」だけでなく、

「社会が受け入れるかどうか」も重要



技術と今後の方向

	シナリオ(1)	シナリオ(2)	シナリオ(3)	シナリオ(4)
減容技術の 組合せ	減容しない	分級処理	分級+ 熱処理	分級 + 熱処理 + 飛灰洗浄
最 終 処分量**1	約210万~310万㎡ [内訳] 除去土壌:200~300万㎡ 廃棄物:約10万㎡	約150万~220万㎡ 【内訳】 除去土壌:140~210万㎡ 廃棄物:約10万㎡	約30万~50万㎡ 【内訳】 全T廃棄物	約5万~10万㎡ 【内訳】 全て廃棄物
放射能濃度 (土壌由来)	数万Bq/kg程度	数万Bq/kg程度	+万Bq/kg∼	~数千万Bq/kg
構 造 (処分場の タイプ)	 (10万Bq/kg以下) > (3廃棄物 (10万Bq/kg超) > 復土 原去土壌 原本・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・			
必要面積※2	約30~50ha	約30~40ha	約20~30ha	約2~3 ha
減容処理 コスト*3	-			

- ※1 これまでに実施した技術実証事業の成果を踏まえ、減容率を設定して試算し、締固め時のかさ密度(1.7 t/m³)で換算。 シナリオ間の比較のしやすさの観点から、数量は概数にて記載。
- ※2 ①、②のタイプの処分場は厚さ10m、③は厚さ5mとして計算。埋立地必要面積のみの評価で、離隔距離の確保や附帯施設等は考慮していない。 ※3 シナリオ(1)は滅容技術を適用しないため、滅容処理コストはOとなるが、滅容技術の適用が増えるほど滅容処理コストは大きくなる。

※県外最終処分に向けたこれまでの取り組みの成果と2025年度以降の進め方(案)について

技術側

- ・社会的受容に対応するために 様々なシナリオを検討
- →技術的な選択肢を複数用意す る姿勢

今後の課題

- ・社会との議論、方向性の決定
- ・さらなる技術進歩と評価軸 (性能、コスト、時間等)の順 序整理

社会的受容の課題

濃度と規模

高濃度、・小規模または 低濃度・大規模の処分 社会はどの度合いなら 受け入れるか





放射線の不安

放射線に対する 見えない不安をどう対処し 安心感を高めるか

情報格差と信頼

専門家、行政、住民間の 情報格差をどのように埋め 信頼関係を築くか





公平性と倫理

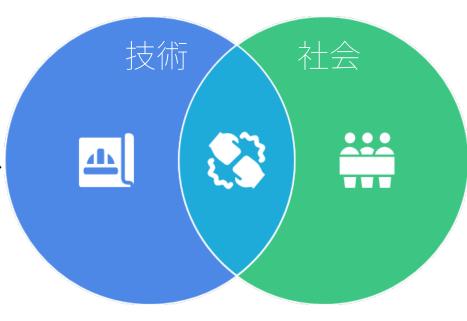
世代間および地域間で 負担をどのように 公平に分かち合うか?

今後の向き合い方

技術は「選択肢」を、社会は「対話」を両輪で進めていく

技術的選択肢

- ・減容化技術の最適化
- ・バランス評価(処分量、
- コスト、時間等)
- ・実証実験



共同意思決定

社会的対話

- ・継続的な議論
- ・専門知識をわかる言葉に
- ・だれでも参加できる環境
- ・受益と負担の見える化

互いにできることを「続けていく」→一番良い着地点へ

復興とは何か?

経済

社会

文化

インフラ

コミュニティ

個人の心

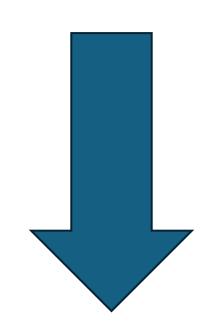
産業

絆

伝統の継承

誰かの復興は誰かの破壊?

人によって、目指すところは様々



一つの答えは出せない

なぜ??

「らしさ」

なんでも「らしさ」

つまり『らしさ』

らしさ?

個人の物語の再構築

復興ー『らしさ』

